

ミスチル はがぼんど



2月14日バレンタインデー、福岡マリンメッセからMr.Children ツアー2009～終末のコンフィデンスソング～開幕！！4月の横浜アリーナ、5月の武道館、それぞれ2 Days 全部行くぞ！と意気込んでいたらチケットが獲れない…全然獲れない…FC落選から始まって数々の先行に落ち続け、やっと友達に武道館に連れて行ってもらえることに(“-)たった一回、心に体に染み込ませてこなきゃ。

九段下から武道館までの歩道は「譲ってください」ボードを持った人たちがいっぱい。大事なチケット、譲ってあげられないけれどどうぞみんながんばって。関東圏は横浜、東京、埼玉とあるのになぜこれほどチケットが獲りにくい？運の悪さだけとは思えない。ほんとうに行きたい人たちがきちんと行けるコンサートってどうやったら可能なかしら？「ほんとうに行きたい」気持ちなんて計測不可能。それが測れたらいいんだけど。



連れて行ってくれた友達。身長172cm。でかいです。スタイルいいです。若いです。もともとは息子の職場の先輩。今はCaccoのチル友です。

ふたつある田安門をくぐるとすぐ武道館が見えてくる。脇の駐車場にツアートラックを発見！



さて、いよいよ武道館。最近のコンサートはあまり遅れない。トイレに行って手を洗って、席を探して、心の準備をしなければ。会場に一步入ると「うわあ、武道館で狭〜〜い！」席はちゃんとあるのについつい走る。友達と手を繋いで。転ばないように。



武道館で公演をしたロックバンド史上、最多の観客数。通常 9,000 人の武道館で今日は 13,000 人が入る。ステージを観客が 360 度取り囲んだ景色もまた圧巻。

バックサイド席

わたしたちの席。ちょー良席。
オークション価格
130,000円せ!!!う、うれしい。

1年半振りのライブ。
ほんとうに
くることができて
よかった!

ステージ!

こっちも客席



わくわくして待つ。友達と軽くおしゃべりなどしながら。突然ライトが落ちる。待ちかねたような歓声、地鳴りの中、皆がステージに向かって立ち上がる。この瞬間がたまらない。スクリーンに映像が流れ始める。逆光照明でステージに上がってくるメンバーの影が浮かび上がる。ひとつの影にスポットがあたる。武道館の歓声は絶頂。凄まじい。桜井くんが目の前にいる。

批評家の指摘も間違っちゃいないけど

今僕らの目の前で起こってることを

楽観も悲観もなくちゃんと捕まえたら

足元に落とした視線を上にあげ 胸を張れ!

胸を張れ、と歌う 1 曲目。ツアータイトルにもなっている「終末のコンフィデンスソング」。



今回のツアーはアルバム「スーパーマーケットファンタジー」を引っ提げてのもの。だいたいアルバムタイトルがツアータイトルになるが今回は違う。過去に遡っても「深海」ツアーが「Regress or Progress (進化か退化か)」ツアーと題されていたことがあるのみ。スパファンのイメージだけに捉われなくなかったのだろうか?

終末のコンフィデンスソング

everybody goes -秩序のない現代にドロップキック-

光の射す方へ

MC

3 曲歌ってMC。いつものミスチルよりはしゃぎふう。MCの雰囲気もいつもと違う?でもまあ今この場にいられるんだから細かいことはどうでもいいや。





水上バス
つよがり
MC

二回目のMC。おお、MCが早い。いつもよりおしゃべりも長い。どうしたミスチル？
「つよがり」は今妻を連想させるから好きでなかったんだけど、今は好き。電話を待つ気持ちにせつないし、わたしも話す相手があんまりいないから..感情移入しやすくなって。

つかず離れずが恋のすべでもそばにいたいよ 　いつ君が電話くれてもいいようになってる
話す相手も自ずと狭まってくるんだよ 　ちいさな願いをいつもポケットに持ち歩いてるんだ

東京
口がすべって
ファスナー
フェイク
掌
声

MC



三回目のMC。「デビュー前どんなに武道館を夢見てきたか、武道館は特別の場所」と。大歓声。**口がすべって君を怒らせた 　でも僕らは許し合う力も持って生まれてるよ** と歌う「口がすべって」も好き。「掌」のアレンジはシフクノオトツアーと一緒に。ライブはアレンジも楽しみのひとつ。全体が盛り上がる大好きなアレンジだけど違うバージョンでも聴いてみたい。「ONE」をテーマにみんな一斉に人差し指をたてる。これ、気持ちいいけどね。



「声」もYHE～！HEY！の大合唱。興奮興奮。

車の中でかくれてキスをしよう
HANABI
youthful days
エソラ
Innocent World
風と星とメロウスの輪
GIFT

中・終盤は一気に。簡単なメンバー紹介。そしてハッピーな「エソラ」。でもどんなにハッピーに聴こえる曲でも **やがて音楽は鳴りやむとわかっている 　それでも僕らは今日も踊り続けている 　忘れないために 　記憶から消すために** 　こういうふうに行くのはいかにもミスチルらしいんじゃないか？イノセントワールドはお決まりの大合唱。最初の一音が鳴っただけでみんながどの曲なのかわかる、こういう大ヒット曲を持つ強み。「G I F T」もラララ..の大合唱から「君から僕へ 　僕からあなたへ 　最高のG I F Tありがとう 　君から君へ 　あなたからあなたへ」と。ほんとうに最高のG I F Tしっかりといただいた。あたしのほうこそありがとう。

アンコール

少年
花の匂い
優しい歌



最後の歌は「優しい歌」だった。誰かのために小さな火をくべるような愛する喜びに満ち溢れた歌と歌う、2001年に作られたこの歌はミスチルの転換期と位置付けてもいい曲だと思っている。ありがとう さようなら と歌う「花の匂い」がラスト曲になるという予想ははずれてしまったが、「優しい歌」での締めくり、とってもよかったんじゃないかと思う。

「いろいろあるだろうけどがんばって。気をつけて帰ってください」深々とお辞儀。わたしはどうもこの桜井くんがいつもする深々としたお辞儀が大好きなのだ。



ライブ終了後、武道館を出る。
目立ってるヲル友!(^^)!



始まりがあれば終わりがあるのは当たり前。終わらなければまたなにも始まらない。余韻を噛みしめつつ新たな気持ちで行こうじゃない。



ミスチルのライブといえばメッセージ色が強く、そのぶん重さを感じるものが多い。今回の終末のコンフィデンスソングツアーはと言えば、いつもよりエンターテインメント性が強かったんじゃないか？はっきりとしたメッセージ性は薄れていた気がする。実はわたしは90年代半ばから後半にかけての暗くて重いミスチルが一番好きだ。



それから時は流れ、今年は結成20周年の年にあたるのだとか。24才でイノセントワールドが大ヒットしたかれらは今年39才になった。過去から現在、変化しないわけでもない。未来のかれらはどんなふうになっているだろう？どんな歌を歌っているだろう？未来のわたしは相変わらずコンサートのチケット取りに精を出しているのだろうか？未来への想像は果てしなく続いて行く。またどこかで会える日まで。